

マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
TEL 093-321-2931(担当：橋本)
E-mail:kyuunan7-j7vj2@kaiho

第71号 平成23年7月



《救命胴衣と携帯電話が役にたった事例》

事例 (6月、第三管区静岡県で発生した事案)

4名が乗り組み釣りをしていたプレジャーボート(長さ5.4m)が、荒天のため転覆しその後沈没。乗船していた1名は海に浮かびながら携帯電話で110番し、救助を要請しました。警察から通報を受け海保巡視船が約2時間後に救命胴衣を着用し海上に浮いている3名を発見救助しました。一方、救命胴衣を着用していなかった1名は海上では発見できず、その後、心肺停止の状態ですら発見されたものの、

病院で死亡が確認されました。

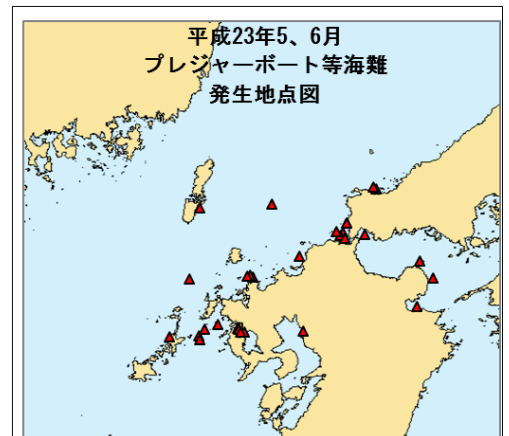
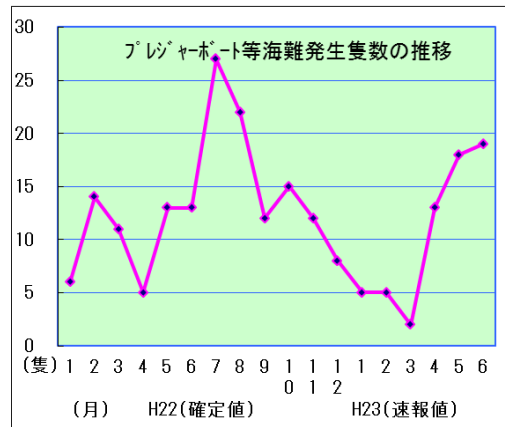
事例からの教訓

通報者が持っていた携帯電話は防水GPS機能付きのものであったことから、正確な位置が表示され、通報位置に巡視船が向かうことができました。また、同人は当初の位置から潮流により流されていましたが、携帯電話の充電も十分にあったことと、救命胴衣着用により、浮力を確保でき若干余裕があったことなどから、海面上で仲間の様子を随時報告しながら救助を待つことができました。

今回の事案は、防水GPS付き携帯電話がその効果を発揮し、救命胴衣着用の有無が生死を分けた事案でした。

平成23年5,6月
プレジャーボート等
海難発生隻数

合計	37隻
衝突	3
乗揚	4
浸水	2
推進器障害	3
舵障害	1
機関故障	11
火災	1
爆発	1
運航阻害	5
その他	6



マリンレジャーに伴う海
浜事故者数

合計	9人(4人)
釣り中	7(3)
ボートセーリング中	1(1)
ウエイクボード中	1

※()内は死亡・行方
不明者数



全国海難防止強調運動

全国一斉に、毎年7月16日から7月31日までの間、「海難ゼロへの願い」をスローガンに「全国海難防止強調運動」を実施しています。

7月16日[土]～7月31日[日]

海へ出かける皆さまへ

- ・ライフジャケットを着用しましょう!
- ・バッテリーやエンジンは大丈夫? 出航前に点検しましょう!
- ・荒れた海は危険です。気象・海象情報を把握しましょう!

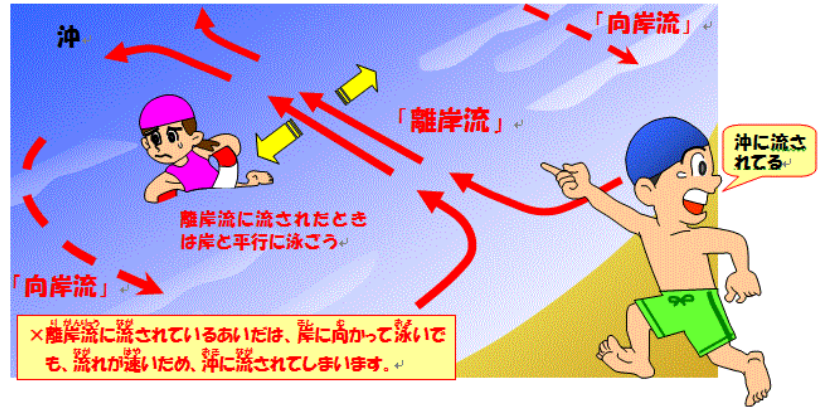
海の事故は、
118番へ!

- 楽しく安全な海水浴のために -
離岸流に注意しましょう！

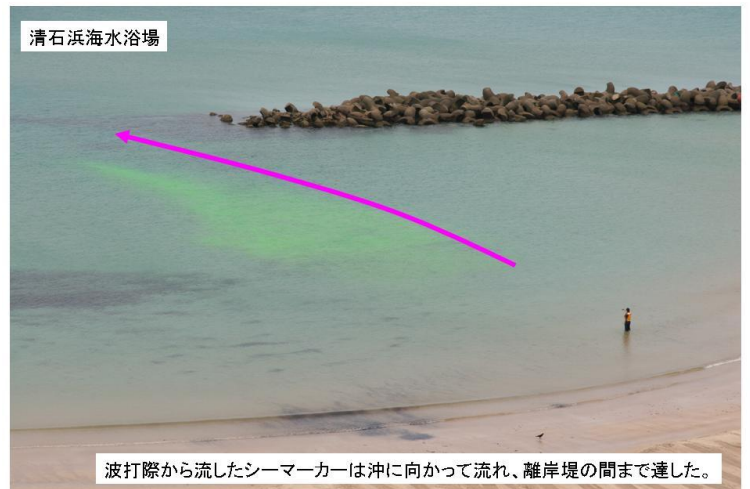
夏本番！

「海で泳いでいたらいつの間にか沖へ流されて…」という体験談を耳にすることがありますが、これは「離岸流」と呼ばれており、この離岸流が原因と考えられる海浜事故が多数発生しています。

「離岸流」とは、海岸から沖へ向かう流れのことで、海水浴場だけでなく、離岸堤の周り、防波堤や突堤など人工構造物の周りなど、波が打ち寄せるあらゆる場所で発生します。また、必ず同じ場所に発生するわけではなく、いつどこで発生するか予測できないという厄介者です。さらに、「離岸流」の速さはオリンピックの水泳選手でも負けるほど速くなる場合があります。離岸流が発生している海岸では、気づかぬうちに沖に流されてしまうことがあるため大変危険です。



第七管区海上保安本部では6月28日から7月1日までの間、長崎県壱岐市の海水浴場にて離岸流の調査を行いました。その結果、シーマーカーで着色した海水が沖へ向かって流れる「離岸流」の様子を捉えることができました。今回捉えられた離岸流は弱いものでしたが、波や風の条件によってはさらに速い流れとなる可能性があります。



もし、海水浴中に離岸流で沖に流された場合は、沖合では流れがなくなりますので、あわてずに手を振って流されていることを伝え助けを呼びましょう。また、泳ぎに自信のある方は離岸流の幅は 10～30mと狭いため、横に泳ぐことで、離岸流から脱出することができます。

また以下のことに気をつけて、楽しい海水浴をお過ごしください。

- ・遊泳禁止場所で泳がない。
- ・体調不良時、飲酒後などは泳がない。
- ・一人では海に行かない。
- ・浮き輪や遊具が流されても無理に追いかけない。
- ・連絡手段（海のもしもは118番）を確保すること。
- ・遊泳禁止発令時は泳がない。
- ・自分の泳力を過信しない。
- ・小さな子供さんからは、目を離さない。